

人権センター 図書だより



Vol.39 令和6年12月20日発行

発行：四日市市人権センター

TEL.354-8609 FAX.354-8611

jinkencenter@city.yokkaichi.mie.jp

10月～11月に入荷した、人権センターの新作図書を紹介します。

図書は、人権課題別に分類しています。コミック、小説、ドキュメンタリーなど形式も多様にそろえています。今回紹介する図書は、私たちの仕事や日常生活で役立てていただける作品です。

とても身近で大切な「人権」について見つめ直す時間、きっかけを、人権センターの図書で探してみたいか、いかがでしょうか？

人権センターでは人権に関する図書を取り揃えており、1回に5冊まで、2週間借りることができます。直接人権センターへお越しいただくか、お電話でお問い合わせください。

分野		分野		詳細	
A	人権一般	F	障害者問題	1	概説・実態・ドキュメント
B	世界の人権問題	G	女性の人権問題	2	歴史
C	同和問題	H	高齢者の人権問題	3	思想・文化
D	在日韓国・朝鮮人問題	I	子どもの人権と教育	4	教育・保育・啓発
E	在日外国人問題	J	その他	5	その他



新着図書より



「言えないことをしたのは誰?(上)」

(I-5-9 著者:さいきまこ 出版:現代書館)

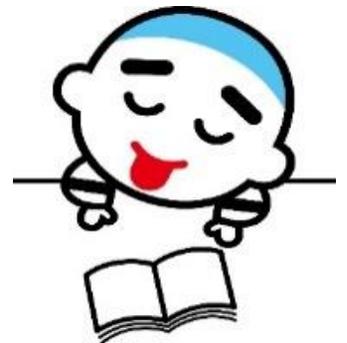
「言えないことをしたのは誰?(下)」

(I-5-10 著者:さいきまこ 出版:現代書館)

「中学生や高校生の時に読みたかった」「全国の学校や図書館においてほしい」。出版以来、こんな声が寄せられていると新聞等にも紹介された漫画作品。

学校という閉鎖的で外部の目が入りにくい環境の中、絶対的権威のある教師が、従順する生徒との関係性を利用し、性加害を行う。進路や個人情報、家庭状況を知っている教師の行動に対し、生徒は助けを求める状況にあるのか?という事も知ることができる。教師は、子どものまっすぐな気持ち、自尊心やプライド、将来や自分自身への不安、加害者(大人)への同情心を利用しながら加害行為を行っていること。そして、被害にあいやすい子どもの特徴があるわけではないことも、この本が教えてくれる。被害者(子ども)の心の動きや性格、環境、心情を細かく描いていて、とても他人事とは思えない。一度被害を受けた人は、何年にも渡って苦しんでいるという現実。

この本を通じて、大人より経験の少ない子どもがどういう思いを持って、重荷を背負っていないか、それを大人が美談にしていないか等を考え、子どもを守っていく事を改めて考えて欲しい。



「子どもと大人の福祉制度の歩き方」

(J-1-148 著者:浜内彩乃 出版:ソシム)

仕事や経済的に困った場合に活用できる制度や、親に障害がある場合、また、子育てが困難な場合のサポート資源についてなど、流れと対応を解説している本。

「メンタル不調で休職し、体調の回復から再就職に至った人」「統合失調症の診断を受け、ひきこもり生活から自立支援に至った人」「知的障害をともなう自閉症スペクトラム症の中学生」「父親からのDV、両親の離婚、不登校から非行に走った少年」の4つが例に挙げられている。

どのようなときに、どのような制度が使えるのか?複雑な福祉制度の全体像を、チャートでスッキリ解説されている。ぜひ参考にしたい一冊。

「発達障害に関わる人が知っておきたい「相談援助」のコツがわかる本」

(F-250 著者:浜内彩乃 出版社:ソシム)

発達障害を持つ人の支援者が知っておきたい基礎知識を解説し、「子ども編」と「大人編」に分け、発達障害の人や保護者などからの「よくある相談のケース」を挙げながら具体的な対応のしかたや返答のポイントを解説している本。

相談内容は「教育・経済・生活・就労」に関する領域を取り上げているため、様々な立場の支援者に役立つ一冊。



新着図書 10月~11月



漫画作品

入荷月	書名	著者名等	出版社等	分類番号
10	言えないことをしたのは誰?上 ★	さいきまこ	現代書館	I-5 9
10	言えないことをしたのは誰?下 ★	さいきまこ	現代書館	I-5 10
11	子どもと大人の福祉制度の歩き方	浜内彩乃	ソシム株式会社	J-1 148
11	発達障害に関わる人が知っておきたい「相談援助」のコツがわかる本	浜内彩乃	ソシム株式会社	F 250

よっかいち人権大学 ステップアップ講座 四日市市総合会館 第3研修室にて

令和7年1月22日(水)13:30~15:00 「バースデー」のDVD上映を行います。

内容は、性の多様性を認め合うお話です。関連図書をご紹介します。



関連図書



「僕たちのカラフルな毎日」

(A-116 著者:南和行・吉田昌史 出版社:産業編集センター)

大阪で法律事務所を営む「弁護士夫婦」(同性カップルの弁護士)の出会いから今日までの歩みをユーモアたっぷりに綴った一冊。

同性愛者ならではの苦労や困難を乗り越え、時に怒り、時に涙しながら、それでも胸を張って歩き続ける二人の姿がユーモアたっぷりに綴られたエッセイ。社会の差別や偏見に、時に怒り、時に涙しながら、それでも胸を張って歩き続けるふたりの姿を通して、多様な性への理解と共感を深めることができる。

「男の人のことが好きなんてダメだ」「人に知られてはダメだ」「知られたら生きていけない」「幸せな未来なんてあるはずない」小さい頃、僕はそう思っていました。でも大人になった今では、自信を持ってこう言えます。「同性愛者だからって不幸なわけじゃない」……………
(本文 1 ページから 3 ページより)

よっかいち人権大学 ステップアップ講座 2024

バースデー

性の多様性を認め合う~誰もが自分らしく生きられる社会をめざして~
令和7年1月22日(水)13:30~15:00(開場13時)
四日市市総合会館 第3研修室(無料) 上映時間 37分

申込フォーム  <https://logoform.jp/f/A9kiM>
締め切り 令和7年1月15日(水) 17:00まで

定員 50名 要申込み
対象 四日市市に在住・在勤・在学の方

人権啓発DVD
主演 羽野美由紀
脚本 南和行
演出 吉田昌史
監製 南和行

上映後、作品のテーマである「性の多様性」に関して、人権センター職員が、「性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律」(2023年公布・施行)の趣旨及び概要と、法に基づいて設置された性的指向・ジェンダーアイデンティティ理解増進連絡会議の動向などについて、ご紹介します。

~あらすじ~
羽野美由紀は、20歳になる娘の笑花が「女らしい」振舞いをしないことが不満だった。笑花は誕生日の夜、自分がトランスジェンダー男性(自認する性が男性)であることを両親に打ち明ける。突然のカミングアウトに動揺する美由紀たち。その気持ちを受け止めることができない彼女だったが周囲の考え方に触れ、次第に自分の心と向き合っていく……

手話通訳、要約筆記、託見をご希望の方は令和7年1/8(水)17時までに人権センターへお問い合わせください

お問い合わせ 四日市市人権センター
〒510-0085 四日市市諏訪町2-2 四日市市総合会館7階
TEL: 059-354-8609 FAX: 059-354-8611
E-mail: jinkencenter@city.yokkaichi.mie.jp